

# 海洋分野の「主要な製品・技術等」の官民投資ロードマップ（案）（概要）

- ◆ 四面環海の我が国にとって、海洋の開発・利用は経済社会の存立・成長の基盤
- ◆ 周辺海域を取り巻く情勢が一層緊迫化する中で、需要の喚起、環境整備、戦略的な官民投資を一体的に推進し、海洋技術の実用を加速化させることで、経済安全保障の重要性の高まりに応えるとともに経済成長につなげていく

## ① 海洋無人機（海洋ドローン）

世界市場で3割のシェア獲得を目指す  
(2030年頃1.5兆円超との予測)

### 【勝ち筋・方向性】

官民投資額 2040年度までで 1.2兆円

- ◆ 造船技術や深海探査等の技術力を活かし、スタートアップも活用して海洋データの利活用や運用サービスも含めたパッケージで高付加価値化を図る。防衛や資源・エネルギー分野等での初期需要創出により、国内生産基盤の構築につなげる



海底探査技術の国際競技大会で活躍

- ◆ 複数年度の視点をもって公共調達による初期需要確保（アンカーテナンシー）を通じた市場形成・拡大に向けた取組を推進する制度の創設に取り組む。
- ◆ その際、G空間情報の利用・環境整備における取組や宇宙等の分野との連携を図る。

## ② 海洋状況把握（MDA）

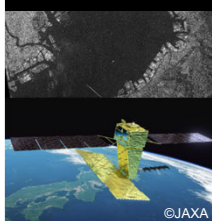
2030年代前半までに我が国のMDAサービスの8か国程度への展開を目指す

### 【勝ち筋・方向性】

官民投資額 2040年度までで 1.2兆円

- ◆ 海洋状況表示システム「海しる」の高度化を行い、安全保障分野での利用高度化や民間利用可能な情報流通を促し、海洋ビジネスの基盤とする。官民連携やODA・OSAを通じて、我が国MDAサービスの国際展開や海外での需要の創出と獲得を図る

安全保障分野の利用高度化



©JAXA

## ③ 革新的海底開発技術・システム

世界初の海底資源開発体制の構築を目指す

### 【勝ち筋・方向性】

官民投資額 2040年度までで 0.9兆円

- ◆ マンガン団塊・レアアース泥等海洋鉱物資源について、資源量調査から探鉱、精製、環境影響調査に至るまでの海底開発技術・システム開発を確立する。

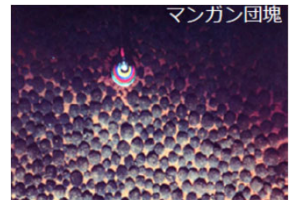
### レアアース泥開発

- ◆ 第3期SIPを通じた開発技術の確立及び総合評価を加速し、経済安全保障の観点から、開発に必要な体制を整備して産業規模での開発の実証を継続し、併せて採算性向上に向けた研究を実施



### マンガン団塊開発

- ◆ 採鉱・揚鉱・精製の技術的課題をクリアしつつ、2029年度に商業規模での実証試験を実施
- ◆ 2030年代前半の商業生産開始を目指す



マンガン団塊